

# 松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉  
 E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>  
 松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」  
 〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

## 学び続ける大切さ

厳しい残暑を越えて、朝夕はめっきり涼しくなり、秋を感じる日々となりました。各園、各校では秋の行事等に向けての取組で、それぞれ多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

さて、当センターが主催する研修講座は、5月から始まり、夏季休業中はほぼ連日開催し、この9月21日まで、全29講座を開催させていただきました。お忙しい中、のべ1609人のたくさんの先生方に参加していただきました。本当にありがとうございました。所長として、ほとんど全ての講座を聞かせていただくことができました。どの講師先生も、それぞれの専門分野での最新の知識と高い見識を持っておられ、私自身が初心にかえって学ぶことができました。思い返してみれば、教職経験10年を過ぎたあたりから、自ら進んで研修を受けることが少なくなりました。「子どもと接する時間がほしい。」「学校での仕事がたくさんある。」といった理由でした。そして年を重ね、これまでの教員生活を振り返ってみると、過去に担任した子どもたちとの関わりで、後悔が残っている場面が浮かんできます。なかでもこの二つの場面は忘れられません。

『みんなの前で、言葉が出にくい子どもがいた。クラスで起こった問題に対して、一人ひとりが意見を言うときがあり、その子がなかなか言えなかった。その子が何か言うまで、長い時間みんなで待っていた。』

『運動会でクラス対抗競技があり、優勝するために休み時間全部を使って練習した。こんなに頑張ったのだから、本番では勝敗に関わらず、終わったらみんなでバンザイしようと呼びかけた。運動会本番、クラスは最下位、ゴールのところでリーダーの子が泣きながらバンザイしていた。』

前述した場面での二人の子どもの表情を今でも思い出すことができます。あのとき、自分にもっと違う考え方ができていれば、つらい思いをさせることはなかったかもしれません。教師自身が様々な経験をして人間としての幅を広げること、そして教職を担う者としていろいろな観点や角度から物事を考え実践に活かしていけるように、研修を通して学び続けることが大切であるということを、今あらためて実感しています。

(大辻 結花)

## 研修講座報告その1 ～研修講座の様子をご紹介します！～

A-1 国語 「言葉っておもしろい」子どもが気づき、力として身に付けていく授業をめざして  
 -4年言葉「いろいろな意味をもつ言葉」の授業を通して- 講師 木村 祐子 先生

「言葉の学習」の単元において、子どもたちが主体的に学習に取り組み、言葉の力を身に付けていく指導のあり方について、第五小学校での模範授業を通して、わかりやすくご教授いただきました。子どもたちの言語能力を高めるためには、授業で学んだことと身の回りの生活をつなげ、日々、言葉への興味・関心を高める取組を行うことが大切であることを学ばせていただきました。



A - 2 音楽 新学習指導要領ではこう変えたい！ 音楽授業の進め方  
～歌唱・音楽づくり・鑑賞～

講師 高倉 弘光 先生

新学習指導要領における内容の構成（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞及び共通事項）等についてわかりやすく解説いただくとともに、体を動かしながら音楽との一体感を味わう実技を通して、楽しく音楽を学ぶことができました。



A - 3 保健体育 器械運動が苦手な先生こそ受講してほしい

「跳び箱の指導」  
講師 松本 格之祐 先生

マット運動、跳び箱の指導について実技指導を交えながら、子どもたちのつまずきに応じたアドバイスを具体的にわかりやすく教えていただきました。講座後、「教材開発、指導の流れ、学習意欲の高め方」という点で理解が深まったという受講者がたくさんいました。



A - 4 道徳 道徳科の特質を生かした授業と評価～体験授業から手立てやその意味を学ぶ～  
講師 河合 宣昌 先生

新学習指導要領に対応した道徳の授業づくりについて、キーワードをもとにわかりやすくご教授いただきました。価値理解、人間理解、他者理解を意識し自分との関わりで考えることが重要であること、授業の基盤となる学級経営が大事であることを学びました。



A - 5 外国語 これからの小中英語授業作り：目標、展開、評価

講師 今井 裕之 先生

新学習指導要領における学力の三要素をどう捉え、どのように評価していくかについて具体的にご示唆いただきました。

「つけたい力を育てる授業の仕組みになっているか。」という先生の問いに気づかされることも多く、授業作りを見直す貴重な機会となりました。

